



論文は書いたら終わり？ —出版〈後〉に研究者ができること

ついに希望のジャーナルにアクセプトされた——そのことだけで満足していませんか？それが英文誌ならなおさらでしょう。しかし、あなたの研究は、論文を出版して終わり、ではありません。メディアに露出する頻度を高めることで、論文が他の研究者から引用され、研究者としてのあなたの価値は上がり、それが次の研究の機会につながっていきます。しかし、ほとんどの研究者は、自分の論文を広め、活用する術を知りません。

このセミナーでは、学術誌の編集に長く携わってきたキムリカ研氏より、一連の研究・出版ワークフローの中で自分の論文をいかにして広めるかについて学ぶとともに、参加者がそれぞれの経験や悩みを共有する場にしたいと思います。また、これから論文を執筆しようという若手研究者にとっても、出版〈後〉を見据えた研究プランを今から練っておくことが非常に重要です。長崎大学の研究者（+研究者の卵）の皆さま、ぜひ広くご参加ください。

2018

3 / 5 月

時間 13:30 ~ 15:30

場所 長崎大学附属図書館
(文教キャンパス)
多目的ルーム(地下)

<事前登録制>

下記連絡先にお申し込みください。空きがあれば当日参加もOKです。

対象

本学の研究者
(大学院生・学部生を含む。人文・社会・自然科学を問わない)

内容

出版ワークフローとは
世界の出版における日本の動向
オープン・アクセス
論文の2次利用の方法
論文の積極的な広報：SNSなど
広報の評価方法：Altmetricsなど
オープン・サイエンスとは

使用言語

日本語
(ただし資料は英語を含みます)

参加無料



講師 **キムリカ研 氏**

Taylor & Francis (T&F) Group
編集部 出版担当者

日本で長く学術出版業界に携わり、英文誌のほかモノグラフやプロシーディングスなど英文書籍の出版も手掛ける。本学が編集する『Journal for Peace and Nuclear Disarmament』（昨年12月創刊）の出版もサポートしている。